

私は、学部では「金融論」、そして大学院では金融政策論を担当しています。いずれの科目とも、デジタル決済、暗号通貨、金融危機防止策、あるいは株式投資など、「おかね」のやりとりをめぐる様々な仕組みや制度をメインに取り扱います。金融の仕組みや制度について、歴史と現状を把握するとともに、現代における問題点をいかに解決するか、そのヒントを提供することが授業での私の役目です。

金融システムを分析するためには経済学の知識が不可欠です。なかでも、制度・制度変化あるいは制度設計に関する知識の習得は効果的です。経済学では、ルールづくりに関する議論をいくつも重ねてきました。人々がどのようなルールのもとでどのように行動するのか、丹念な研究が蓄積されています。人々の行動の動機に対してどのような仕掛けや刺激を与えてすることで、人々の状態を望ましい方向に、誘導、デザインできるのかについて考える様々な知恵を経済学は導き出してきました。そうした知恵を「金融論」「金融政策論」で勉強します（なお、学部では金融に限らずルールづくりについて考えるための学部科目「インセンティブの経済学」も私が担当しています）。

私の研究動機は、日本の歴史上の様々な出来事を参照しながら経済学の知見を高めることはできないか、という関心からくるものです。明治・大正時代以来の銀行経営者の慣行が昭和初期の銀行危機の遠因となったことをデータ分析で示すことで、銀行経営の健全性を維持するために必要な秩序政策を議論したことが主要な業績です。最近では、大正・昭和の時代に金融リテラシー教育がなぜ衰退したのかを問題意識として研究を進め、平成から令和へと時代が過ぎ行くなかで生きるヒントを導き出したいと考えています。

おかねをめぐる人類の歴史を経済学的に解釈してみることに。皆さんぜひ本研究科・本学部で体感しましょう。